

## はじめに

いよいよ東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年となりました。公教育の場では、小学校で新しい学習指導要領が全面実施される年であり、来年は中学校がそれに続きます。変化の激しい予測困難な時代にあって、学校教育が長年目標としてきた「生きる力」の育成がますます重要となっています。そのため、学習指導要領の改訂に当たっては、知識の理解の質を高め、これからの時代に必要とされる資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

このような背景を踏まえ、教育センター学びの丘では、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒を育成するために、「研修の充実」「研究の推進」「学校への支援」の3つの柱を通して、学び続ける教職員を支援し、和歌山の教育を元気にするための事業を展開しています。

本誌は、当センターが実施する各事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、所員等が今年度研究した以下の3つの内容を掲載しています。

「中学校外国語科における授業づくりについての一考察」では、中学校外国語科教員による研究会を発足させ、学習指導要領（平成29年告示）で求められている言語活動の充実、特に **Small Talk** と複数の領域を統合した言語活動を取り入れた授業づくりを提案しています。

「批判的に読む力の育成をめざした単元構想についての一考察」では、批判的に読む力の育成をめざし、中学校国語科の説明的な文章における授業づくりにおいて、5つの要点を押さえた単元構想を提案しています。

「教頭の県外派遣事業による学校経営力の向上をめざした取組について」では、県全体の戦略的な学校経営の充実を図ることを目的とした本事業の取組の内容と活用事例を紹介し、今後の展望等について報告しています。

以上、これらはいずれも新しい学習指導要領に込められた願いの実現と本県における今日的教育課題の解決に向けて、一助となる研究内容であると考えています。本誌の内容が本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、ご高覧の上、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和2年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 西 嶋 淳